

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成 26 年 5 月 22 日 (2014.5.22)

【公開番号】特開 2014-63200 (P2014-63200A)

【公開日】平成 26 年 4 月 10 日 (2014.4.10)

【年通号数】公開・登録公報 2014-018

【出願番号】特願 2014-3679 (P2014-3679)

【国際特許分類】

G 0 3 G 21/18 (2006.01)

G 0 3 G 15/08 (2006.01)

【F I】

G 0 3 G 15/00 5 5 6

G 0 3 G 15/08 5 0 7 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 2 月 27 日 (2014.2.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

画像形成装置の装置本体に着脱可能なカートリッジであって、
第 1 枠体と、
被給電部材と、
前記第 1 枠体に設けられた穴に取り付けることによって前記被給電部材を前記第 1 枠体に固定する、導電性を有する固定部材であって、前記被給電部材に電氣的に接続する固定部材と、

前記第 1 枠体に設けられた、前記穴と繋がった凹部と、
前記凹部に導電性の溶融樹脂が注入されることによって形成された樹脂成形部であって、
前記カートリッジが前記装置本体に装着された際に、前記装置本体に設けられた給電部と前記固定部材を電氣的に接続する樹脂成形部と、
を有するカートリッジ。

【請求項 2】

前記固定部材はビスであり、前記穴は前記ビスが取り付けられるビス穴であることを特徴とする請求項 1 に記載のカートリッジ。

【請求項 3】

前記カートリッジは、前記第 1 枠体に取り付けられた第 2 枠体を有し、前記凹部に樹脂を注入する注入口は前記第 2 枠体に設けられている請求項 1 又は 2 に記載のカートリッジ。

【請求項 4】

前記カートリッジは、前記第 1 枠体に取り付けられた第 2 枠体を有し、前記給電部が接触する接触部は、前記第 2 枠体を貫通して前記第 2 枠体から露出している前記樹脂成形部の端部である請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載のカートリッジ。

【請求項 5】

前記給電部が接触する接触部は、前記注入口から露出している請求項 3 に記載のカートリッジ。

【請求項 6】

前記第 2 枠体は、前記凹部と前記注入口を繋ぐ連通孔を有する請求項 3 に記載のカートリッジ。

【請求項 7】

前記連通孔の軸線と直交する断面の大きさは、前記連通孔の軸線の方において前記凹部側が前記注入口側よりも小さい請求項 6 に記載のカートリッジ。

【請求項 8】

前記第 2 枠体には、前記注入口と前記給電部が接触する接触部を有する接点部であって、導電性樹脂で一体成形された接点部が設けられている請求項 3 に記載のカートリッジ。

【請求項 9】

前記被給電部材は、感光体に形成された静電潜像を現像する現像剤担持体に担持される現像剤の量を規制する規制部材である請求項 1 乃至 8 のいずれか 1 項に記載のカートリッジ。

【請求項 10】

前記被給電部材は、感光体の表面から現像剤を除去するクリーニング部材である請求項 1 乃至 8 のいずれか 1 項に記載のカートリッジ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

上記目的を達成するため、本発明に係るカートリッジは、画像形成装置の装置本体に着脱可能なカートリッジであって、

第 1 枠体と、

被給電部材と、

前記第 1 枠体に設けられた穴に取り付けることによって前記被給電部材を前記第 1 枠体に固定する、導電性を有する固定部材であって、前記被給電部材に電氣的に接続する固定部材と、

前記第 1 枠体に設けられた、前記穴と繋がった凹部と、

前記凹部に導電性の溶融樹脂が注入されることによって形成された樹脂成形部であって、前記カートリッジが前記装置本体に装着された際に、前記装置本体に設けられた給電部と前記固定部材を電氣的に接続する樹脂成形部と、を有する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

[プロセスカートリッジ]

本実施例に係るプロセスカートリッジ B は、感光体ユニット C と、現像ユニット（現像装置）D を一体的にカートリッジ化し、装置本体 A に着脱可能（装着可能）としたものである。感光体ユニット C は、感光体ドラム 10、帯電手段である帯電ローラ 11、クリーニング手段であるクリーニングブレード 12などを有する。現像装置 D は、現像手段としての現像ローラ 23、供給ローラ 22、現像ブレード（規制部材）24、トナー収納部 20、及び現像容器（現像枠体）21などを有する。本実施例において、現像手段は次のように現像を行うものである。まず、トナー収納部 20 のトナーを供給ローラ 22 の回転によって現像剤担持体である現像ローラ 23 へ供給し、現像ブレード 24 によって現像ローラ 23 の表面に担持されるトナーの量を規制しトナー層を形成する。そして、そのトナーを静電潜像に応じて感光体ドラム 10 へ転移させることによってトナー像を形成して可視

像化する。本実施例において、クリーニング手段は、転写ローラ 5 によってトナー像を記録媒体 P に転写した後の感光体ドラム 10 に対し、クリーニングブレード 12 によって感光体ドラム 10 上に残留したトナーを除去するものである。クリーニングブレード 12 は、そのエッジ部をカウンターの向きで感光体ドラム 10 に当接するように設けられた弾性ブレード 12 a によって感光体ドラム 10 上の残留トナーを掻き落としてクリーニング枠体 13 へと集める。